# 地域の食資源を活かした産業振興を目指して!!

鹿屋市は温暖な気候や広大な農地などの恵まれた営農環境のもと、多種多様な農業経営が行われるなど、品質の高い農林水産物が数多く生産されています。

本市では、この豊かな地域の食資源を活用した地域ぐるみの6次産業化を推進して、農林水産業を成長産業に変えることにより、魅力ある雇用の場を創出し、地域全体の産業振興を目指しています。

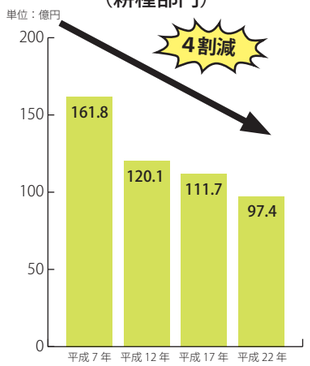
## 農業を取り巻く現状

鹿屋市は全国でも有数の食料供給基地としての役割を担っています。

しかしながら、人口減少や少子・高齢化による食のマーケットの縮小や、貿易自由化の進展に伴う国際間競争の激化、担い手の高齢化や後継者・労働力不足など、本市農林水産業を取り巻く環境は非常に厳しい状況にあります。

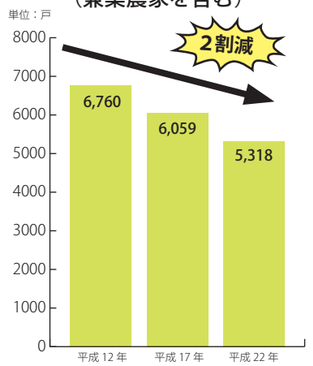
統計で見ても、本市の耕種部門の平成22年の農業産出額は97億４千万円であり、平成７年と比較して約４割減少しています（図１）。 農家戸数も平成12年から10年間で約２割減少（図２）。また、耕作放棄地面積についても、平成21年の664haから、４年後の平成25年には948haに増加（鹿屋市調べ）しています。ただ、一方では、耕作面積５ha以上の大規模農家数は平成12年から、約６割の増加となっています（図３）。

図１ 農業産出額の推移（耕種部門）



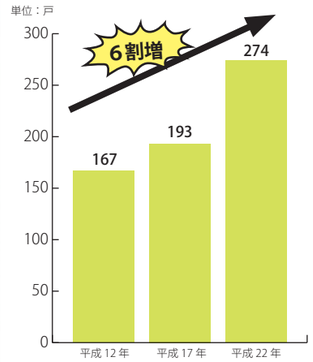

出典：肝属地域の農業

図２ 農家戸数の推移（兼業農家を含む）




出典：県農林水産統計年報、農林業センサス

図３ 大規模農家の戸数




出典：肝属地域の農業

農林水産業は、人間の生活に不可欠な食を生み出します。そして資材や飼料、運送など関係する業態も多く、その発展が地域経済全体の発展に大きく寄与する、なくてはならない基幹的産業です。

更に、東九州自動車道の開通や県の大隅加工技術研究センターが設置されるなど、今後、農林水産業を振興するうえで、大きな追い風となる基盤整備が進んでいることを踏まえ、本市では、地域の『食』を活かした地域6次産業化の推進に取組んでいます。

6次産業化は、地域の農林水産業（第1次産業）から生み出される農産物などの地域資源と、これに関連する加工・製造業（第2次産業）や販売業（第3次産業）を融合させて、新たなビジネスの展開や販路拡大などを図り、地域の所得向上と雇用創出につなげていく取組みです。

今、この6次産業化は全国的に注目されており、市内でも様々な形で6次産業化に取り組む農林漁業者が増え、すでに事業が軌道に乗っている事例も見られるようになりました。

しかしながら、その一方では市場ニーズへの対応や衛生対策など、食を取り巻く環境が年々厳しくなっていることから、農林漁業者だけで6次産業化を成功させるためのハードルは年々高くなっています。

このため本市では、農林漁業者による6次産業化にとどまらず、地域の1次、2次、3次の事業者が連携して豊かな食資源を活かした「6次産業化」に取り組む「地域6次産業化」に向けた取組みをスタートさせ、加工食品にとどまらない、多様な商品・ビジネスの開発を進めています。

問 市産業振興課 ☎31-1180

・所得向上（付加価値・利益）
・雇用の場の創出
・地域の活性化

Interview

産業振興課
時村（ときむら） 敏博（としひろ）さん
ビジネスコーディネーター

私が勤務する鹿屋市産業支援センターには、会社設立や資金調達、商品開発、販路開拓など、ビジネスに関する多くの相談が寄せられます。

その中でも特に多いのが、地域の食資源を活かした商品の開発や販路の開拓に関するものであり、この地域が食の宝庫であるとともに、「地域の食の魅力を多くの人に届けたい」と思っている人がかなり多い、ということを常々感じています。

現在は、インターネットによる販売方法も普及しており、地方から全国に向けて付加価値の高い商品を販売していくことも挑戦しやすくなりました。

皆さん、鹿屋市の豊かな食資源を活かして、6次産業化に挑戦してみませんか。

私たちがお手伝いさせていただきます。